

急がれる高い補償力での加入の普遍化！

－ 大型クラゲ大量発生など厳しさを増す漁業環境への対策を －

先日急遽開催された「大型クラゲ全国協議会」によりますと、今年は早くも対馬周辺で大型クラゲが見られ、東シナ海などではかなりの量が確認されていることから、このままいくと過去の大量来遊時に匹敵するような大きな漁業被害の発生が心配されています。

ぎょさい制度は漁業経営の維持・安定にその機能を果たしてきましたが、過去の大型クラゲ被害に際しては契約時に十分な補償内容が選択されておらず、大きな災害発生時にその機能が発揮されないという残念な事例が見られました。

また、8月下旬にスタートする北海道の秋サケ定置漁も昨年より一段と厳しい資源水準が予想され、道立水産孵化場によりますと来遊数は昨年より35%も減少すると予想されており、漁獲量が大きく減少することが心配されます。

更に、アワビをはじめホタテなど魚価の低下が顕著な漁業種類では生産金額が減少する一方、漁業にかかる経費は増加傾向にあり、今後、漁業経営に与える影響が心配されます。

このように、今年は漁業環境がより厳しさを増すことが危惧されています。その備えのためにも契約割合を高めて厚い補償方式で加入するなど、補償力を高めて加入することが急務とし、高い補償力での加入普遍化を目標に「ステップ・アップぎょさい」全国運動を展開しています。

大型クラゲの影響によるとみられる 漁業共済の共済金の支払状況

(金額 百万円)



支払時期	支払件数	共済金
平成14年度	145	903
平成15年度	311	1,459
平成16年度	0	0
平成17年度	319	946
平成18年度	12	15
平成19年度	0	0
平成20年度	0	0

※年度は4月から3月の期間